

平成25年度第2回北区まちづくりビジョンの推進に向けたワークショップ

日時：平成25年10月2日（水）

19:00～20:30

場所：植木公民館多目的ホール

第1分科会関連（防災・防犯・高齢者や子どもの見守り・食育等）

◆主な意見

〔高齢者支援〕

○いきいきサロン事業の拡充

見直しを含めたいきいきサロンの活用

いきいきサロンのモデル地区の設定（1年間）

○高齢者の生活支援・見守り、独居高齢者の見守り（漏れのないシステム作り）

○80歳の門出をお祝いする式として「4倍成人式」の開催

○防犯協会と連携した夜間の一人暮らし高齢者の見守り

○敬老会などに出席する高齢者が決まっている。出席されない方に出席してほしい。

○認知症カフェ、居場所づくり、地区内の縁側機能づくり

○小学校で認知症サポーター養成を行う。

できれば授業として実施。親も参加する。

年間行事として計画してもらう。

○高齢者の生きがいづくり（高齢者とペットの交流）

○各町内でささえあいマップを作成する。子どもから高齢者、障がい者の支援マップ

○高齢者が気軽に集まれる場所が必要

・高齢者向けの学校など、ただ集まるのではなく目的や楽しみを持って集まり「自分にも何かできる」と思うことが大切

・500mに1つくらい歩いていける場所

・介護予防にも役立つ「いきいきサロン事業」の拡充→活動費の助成

・かがやき館の活用→アクセスしやすいように公共交通の整備

・公民館の活用→○○教室ばかりでなく、地域の人がいつでも立ち寄れる場所に

〔世代間交流〕

○親守詩大会の開催

子から親へ、親から子へ想いを贈る詩（子＝五・七・五 / 親＝七・七）

行政発は全国に例がない。「熊本市北区発」にしたい。

親子をつなぐ親守詩の啓発は、子どもが育ち、親育てにもなりそう。

行政へのお願い→①ポスター・チラシの作成、②投函ポストの作成

③表彰、④表彰作品をカレンダー等にする。

○高齢者と子どもの交流の機会をつくる。

区全体で、地区で、校区で。

○下校時のふれあいタイムは是非実現してほしい。予算もいらない。

○子どもたちとのつながり、接点を持つことが重要。

○世代間交流のイベントを企画・実施する。

○小中高生の地域での挨拶運動

[子育て支援・子どもの見守り]

○地域連携の子育て支援

○子育てネットワークを校区単位で

○子どもの見守り

○自分の団地だけでなく他の団地からも来られている。それは広い畳の部屋と気楽に自分の気持ち、子どもの気持ちを出しやすい雰囲気づくりをしている。

○子どもの頃から食育を。

○子ほめ条例の制定

義務教育9年間の中で、全員の子どもに賞状を出す取り組み。

○1/2成人式の開催

小学4年生の10歳をお祝いする式を成人式のようにしたい。

ただし、親への感謝の気持ちを表す式にする。

[防災・防犯]

○町内ごとで防災・災害訓練を行う。

町内ごとの避難訓練の実施。隣近所で要援護者を助け出す、安否確認をする訓練。

防災・災害の訓練

○防犯と防災連携⇒一緒にできる事業展開

○防災意識の向上（住民）を行いたい<防災意識を持ってもらうのが第一>

○清水では防犯マップを作成したり、防災まつりで自衛隊に教えてもらったりしている。

○消防団が防犯もできる。独居老人の見守り等。ただ、地区で団員数が極端に違うため、統一した事業展開（協力）は難しい。

○ハザードマップの早期作成を行い、それをもと（土台）にして防災意識向上の施策をうつ。

○校区によって活動の温度差があるため、まずは校区単位でまとめて、そこから北区全体に広げていくということも考えないといけない。

○防犯協会などは自治会長が兼務しているところが多く、それではなかなか自治会長の業務が多くて自由に動けないので、兼務ではなく、自由に動ける人を上にたたせ

て、活動を展開していかねば先に進まない。

- 祭りやイベントを活用して、防災コーナーを設けて住民意識の向上を図る。
- 防災マップづくりを急いで行う。
- 避難所の地震・津波に対する耐久力は、3. 1 1 災害からみて検討すべき。

[交通安全]

- 道路の白線引きなど、交通安全対策の推進を図る。
- 通学路が危険なので、自転車専用レーンをつくってほしい。

[人材の育成]

○福祉協力員の設置

- ・福祉協力員をきちんと位置づけて市が委嘱することが大切である。
- ・何でもかんでも市が自治会長に依頼するため、自治会長や民生委員は大変であるとみんなが思っているため、引き受けてくれる人がいない。福祉協力員を育成すれば、自治会長や民生委員など、将来の人材確保にもつながる。
- ・今のあやふやな立ち位置では地域でも意見を言いづらい。→リーダーや行政・区による委嘱による位置づけが必要
- ・鹿児島では地域の中で部会をつくり活発に活動し、自分達でお金を生み出している事例があるので参考にしようか

○ボランティアの育成

- ・隣の人を隣の人が支える教育を。地域の者が地域を支える
- ・小中学校のときから地域でボランティア活動を。子どもたちのボランティア活動の妨げとなっているのが親である。親の理解がないので進まないことが多い。
- ・「認知症サポーター養成講座」などの研修を受けても、今は受けっぱなしになってしまっている→せっかくのスキルを役立てられるような受け皿が必要。

○要援護者支援システムの整備

- ・現段階では形だけ提出している状況で、書いている内容が現実に即していない
- ・誰が援護するのか、本当に援護できるのかきちんと考えて記入すべき
- ・要援護者をハザードマップに書き込むなど、ハザードマップと組み合わせて考える必要がある
- ・実際に何か起きたときに、支援できるのは隣近所の人たちなので、近所で助け合えるような体制づくりを行政にサポートしてほしい

◆まとめで出された意見

○いきいきサロンの拡充。

高齢者の生活支援や見守りが重要であり、区内のいきいきサロンの拡充を図る。

○小学校で認知症を理解する

小学校で認知症サポーターの養成を行うなど、子どもの頃から認知症を理解してもらう取り組みを進める。

○親守詩大会の開催

世代間交流を進めるために、北区の親守詩大会を開催する。

○ボランティアの育成

- ・地域で活動するボランティアを地域で育てる。地域の財産となるように、校区でのボランティアの育成を行う。
- ・ジュニアボランティアやシルバーボランティアとの連携を図る。
子どもの頃からの取り組みが重要。きっかけづくりも必要。

○福祉協力員の設置

- ・自治会ごとに福祉協力員を設置する。
- ・福祉協力員が根付くように、市がきちんと位置づけて委嘱する。
定期的な総会や研修などのフォローも必要。

○高齢者が集まれる場所の拡充

- ・今ある場所の有効利用（学校の空き教室やかがやき館、公民館など）
- ・「いきいきサロン事業」の利用促進
- ・行政は財政面でのサポート

○防災まつりの開催

起震車体験や避難所疑似体験、炊き出し、避難経路確認企画等）最初のうちは、地区で行われているイベント（ほくぶフェスタで実際に行われているとのこと）にタイアップして行うのも一つの方法

○北区防災訓練（4地区リレー形式でも）

○防災の日（制定し各地区で共通した催し等行う）

○防災講演会（まつりの中の一つの企画でもいい）

○防災協会の設立

各校区ごとに、防犯協会のように防災協会を設立する。

○防災訓練の充実について

若者の参加が少ないので、若者を増やす方法を検討する。

○交通安全について

道路の白線が消えている箇所が多いので、整備してほしい。

第2分科会関連（公園美化・公園利用・健康づくり・地域行事等）

◆主な意見

[地域資源の活用・地域行事]

- 住み慣れた地域を知る活動
北区の良いところを知る活動、ウォークラリー等。
観光地のみでなく、自分の家の周辺を歩いてみよう。地域のつながりが見えてくる。
- ホテルの里づくり(坪井川流域の環境づくり)

[健康づくり]

- スポーツを通じた健康づくり
- 小中学校などを利用し、校区でのスポーツ大会を開催。将来的に北区全体に拡充。
- 校区対抗北区オリンピック、パラリンピックの開催
スポーツだけでなく、将棋、レクリエーション
子どもも大人も参加できるものを
清水、龍田、北部、植木の4つの地域でそれぞれ種目ごとに開催
高齢者の介護予防活動の1つとする
- 校区単位の健康まちづくりの推進(具体性をもつ)
- ウォークラリーの実施を調整する必要がある。

[公共交通の利用促進]

- ゆうゆうバスのルートを変更し、ゆうゆうバスをもっと活用する。
- 熊本駅や区役所行きのバスの利便性を高める。
- 全般的に交通網の整備が必要。
- コミュニティ交通の利便性を向上させるために見直し検討を行う。

[区の祭り・イベント]

- 老若男女が参加でき、心に残るまつりを企画する。
- 植木はってん祭を北区のまつりとして活用する。シャトルバスの活用などが必要。
- 北区のまつりをフードパルで行ってはどうか。
- 各校区のまちづくり委員会の連携
- 民謡田原坂全国大会を実施する。
- 区民の集いの開催
- 北区全体を通しての交流の場をつくる。
- 北区音頭をつくる。

[公園の整備・活用]

- 4 地区の公園の整備（龍田、北部、清水、植木）が必要。
 - 防災（避難場所）
 - イベント会場（水道、電気、食糧）
 - 風で動くモニュメントの設置

〔人材の育成〕

- 地域リーダーの育成（人材交流）
- 各地域における人事の調査が必要
- 各地区の調査（文化、芸能、史跡、風土、人材）

◆まとめで出された意見

- 北区オリンピック等の開催
 - ・種目は、スポーツだけでなく、書道や俳句、将棋やカラオケ、ウォークラリーなど、スポーツ、文化、レクリエーション等の分野も含めて、様々な住民が参加できるようにする。
 - ・種目ごとに担当する地域又は校区を決め、4地域で何らかの種目が開催されるようにする。毎年、持ち回り方式で実施する。
 - ・各会場では、食生活改善推進員等と連携し、食の提案・実演等も行う。
- 北区としてのまっりの開催
 - ・はってん祭などの祭を充実させ、北区の皆が参加する魅力ある祭に発展させる。
 - ・駐車場の確保が難しいため、シャトルバスを活用する。
 - ・フードパルなどを会場にしてはどうか。
- 交通体系の見直し、利便性の拡充
 - 区役所行きのゆうゆうバスがない。住宅地を通る路線を拡充する。
- スポーツの交流について
 - 北区でリレーマラソンの実施。
- 校区単位の健康まちづくりの推進
 - 具体性を持った事業を展開する。

第3分科会関連（産業振興・地域資源の活用・情報提供等）

◆主な意見

〔地域資源の活用〕

- 住み慣れた地域を知る活動
北区の良いところを知る活動、ウォークラリー等。
観光地のみでなく、自分の家の周辺を歩いてみよう。地域のつながりが見えてくる。
- 歴史・文化資源の活用（見学会の実施）
- 菱形校区の冒険の森
- 田原坂の活用
- 菱形小学校のカタルパを観光資源として活用する。重要文化財にできないか。
- 歴史の学習と郷土教育を行うため、地域資源の開発と観光マップを作成する。
- 植木商工会と北部商工会が広域連携に取り組んでいる。
北部商工会、植木商工会、河内商工会、天水商工会、玉名商工会で連携して地域の観光マップ作りをやっているので協力はできる。
- ホテルの里づくり(坪井川流域の環境づくり)

〔区の祭り・イベント〕

- 老若男女が参加でき、心に残るまつりを企画する。
- 植木はってん祭を北区のまつりとして活用する。シャトルバスの活用などが必要。
- 北区のまつりをフードパルで行ってはどうか。
- 各校区のまちづくり委員会の連携
- 民謡田原坂全国大会を実施する。
- 区民の集いの開催
- 北区全体を通しての交流の場をつくる。
- 北区音頭をつくる。

〔産業の振興〕

- 雇用の創出により、北区内の人口の増加を目指す。
 - 農業 6次産業の検討グループをつくる。
 - 商業 B級グルメ検討会をつくる
 - 工業 ものづくり教室をつくる。
- 植木スイカの生産を推進させる。
- 農業の振興への取り組みとして、後継者の確保と生産コストの研究に取り組む

その他

〔道路の整備〕

- 武蔵・龍田方面からは区役所は遠い。道路の整備をする必要がある。特に高速道側道は最低2車線に拡幅すべき。
- 武蔵方面への道路標識が少ない。とにかく区役所までややこしい道路となっている北部土木センターと地域との話し合い(仕組みづくり)が必要。

〔その他〕

- 行政の積極的にかかわり
空地(田・畑)、空家の調査、仲介、紹介を行う
- 合併から1年程度、市民の声は龍田出張所を総合出張所にすべきである。

◆まとめで出された意見

- 北区としてのまつりの開催
 - ・はってん祭などの祭を充実させ、北区の皆が参加する魅力ある祭に発展させる。
 - ・駐車場の確保が難しいため、シャトルバスを活用する。
 - ・フードパルなどを会場にしてはどうか。
- 地域資源の活用
菱形小学校のカタルパの巨木は日本一なので、もっとPRし、北区の資源に。
- 北区の祭り
北区の一体感をどのように持たせていくか、重要な課題である。
そのための方策として、北区音頭をつくる。北区の交流の場としての祭りの開催を検討する。
- 観光マップ+人材マップの作成
北区をもっと知ってもらうことが重要。
そのために観光マップ+人材マップの作成